

北海道新幹線 そばで見たよ

こども記者8人

車両基地におどろき

2016年3月の開業から1年半がすぎた「北海道新幹線」。新函館北斗―新青森間の148・8キロを最短1時間1分で結び、1日13往復運行しています。30年度末には札幌までのびる予定です。札幌の小学5、6年生8人が「まなぶんこども記者団」として、JR北海道の新幹線車両基地（渡島管内七飯町）などを訪れました。

（文・宮本武、写真・石川夢子）



新函館北斗駅で、北海道新幹線の車両を見学するこども記者たち

車両基地の広さは35万平方メートル（札幌ドーム約7個分）。ブレーキやドアの動作などをみる2日に1回の検査をはじめ、車両がちゃんと動くかや傷んでいないかを定期的に確かめています。

北海道新幹線は車両10両で一つの編成（乗客数723人）です。これが4編成あり、通常、このうち2編成が運行。1編成が検査を受けたり、訓練に使われたりして、残る1編成が緊急時の

ために待機します。

この日は作業がありませんでしたが、大きくつでのような動きをするロボットを使って車両の塗装をしていると聞き、こども記者たちは「ロボット!？」と声を上げておどろきました。

新幹線は10両編成で全長253メートル、高さがキリンの背ほど（4・49メートル）あるとの説明を受け、「人の手では塗れないね」と納得。ちなみに車両1台の平均の重さは、ゾウ1頭分（44トン）もあるといえます。

（2面 基地の中、取材したよ）

運転士31人 車掌22人 体きたえ準備



新幹線の説明をする小林さん

車両基地内にある函館新幹線運輸所には、運転士31人と車掌22人がいます。

主任運転士の小林俊之さんは「まずは安全。正確で快適に（乗客を）目的地へお連れしたい。体調管理が欠かせないので、休日にスポーツで体をきたえる人が多いです」と話します。

こども記者から「新幹線と普通の列車（在来線）では、どちらの運転が難しいですか」との質問が出ました。新幹線は速度が速

いだけに危険性も高く、在来線は踏切などへの注意がいるとの説明に、菊谷美月さん（札幌北小5年）は「それぞれに難しさがあると改めて感じました」。

運転以外にもいろんな仕事があり、ときにはおもちゃの列車と線路を使いこいで問題が起きたら、どう対応するかなど、運転士同士で意見を交わすそう。三角豊年君（本郷小5年）は「安全のため、分刻みで準備しているんだと感じました」と話していました。